
不規則が願い

直江 アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不規則が願い

【Nコード】

N5925A

【作者名】

直江 アキ

【あらすじ】

肌を合わせても相手に想いが届かなくて、切ない……そんな恋も実はあるのではないだろうか？そんな想いと、そばにいても淋しいと思える切なさを書きました。

（前書き）

初めて短編ですが、小説を投稿します。青春のように甘酸っぱいものではなくても、切ない気持ちがあればと思っています。よければ感想を聞かせてください。

私が見上げたそいつは、目を瞑って緩やかに呼吸していた。

頬に触れる肌は筋肉の程良い弾力があって、微かにそいつの匂いが鼻孔を撩る。男にしてはやや薄い胸板に手をはわす。そのまま、胸に唇を押し付けるが、微動だにしない。頬を寄せたことで、鼓動が聞こえた。規則正しく緩やかに心臓の弁が開閉している。『眠っている』と思つて再び見上げた私に、そいつはうつすらと呟いた。

「なに？」

唇を押し付けた行為が、ずっとそいつを見ていたことが、ばれて
いる。

妙に恥ずかしくて、それだけで心臓が早鐘を打つ。だけど、私を
抱えたそいつの胸は規則正しいまま。焦ってすらもらえないのは…
…淋しい。

「好き」

だから、焦つて。少しは、不規則になつてほしい。変わらない呼
吸と心臓の音は、私を不安にさせる。

「……好きだよ」

私は体温があがつて、そいつの体が心地好い。だから、わかった。
そいつは、私の言葉じゃ何も感じない。何も変わらない。

「……俺も」

薄目を開けて私を見るそいつの、感情の見えない瞳を忘れられない。
い。

呼吸も心臓も体温も、全てが同じ。変わらないもの。だから…
…嘘だ、とわかる。もう、わかっている。自分がどう扱われているのか。

それでも願ってしまう。肌を合わせてしまう。その時だけは、そいつが不規則になる。

いつだって規則的なそいつが、変わる 私で変わっていく。
変わって欲しいから、私は甘んじて受け入れている。この関係は、一般的に誉められたものじゃないとシッテイテも……

不規則も規則も私の為であってほしい。

（後書き）

最後まで読んでいただいております。よろしければ感想・批評などいただければと思っています。お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5925a/>

不規則が願い

2010年10月28日07時03分発行